

『ACKG、PCIG インターアクトを設立 海外民間事業の新会社』

ACKG、PCIG
海外民間事業の新会社
インターアクトを設立
10年後、数十億売上想定

ACKGグループ(ACKG)とパシフィックコンサルタンツグループ(PCIG)の両社が、10年後、数十億売上を想定して、海外民間事業をメインに手掛ける新会社「InterAct」を設立した。社長は千葉俊彦氏、代表取締役会長は八島雄一郎氏が、千葉社長は、スター

トは総勢10人くらいになる。まったく新しいところにチャレンジするので詳しい数字を述べることはできないが、5年後に売上規模は数億円、10年後は数十億円に伸びるだろう」という見通しを示した。

新会社は資本金3億円で、

両グループ会社が50%ずつ出資した。アドバイザーやコーディネーターとして事業形成に主導するとともに、プロジェクトによってはSPC(特別目的会社)やコンソーシアムに参加するなど出資・投資も計画している。技術者など必要な人材は、プロジェクトごとに両グループ会社から派遣する。

廣谷彰彦ACKG社長は



左から長谷川、千葉、八島、廣谷氏

「新会社は事業形成者や事業遂行者など多くの役割を担う。両社グループの技術や人材、国内外のネットワークを活用することで、インターアクトをインターフェースとして双方の総力を生かすことができる」と述べた。

長谷川伸一PCIG社長は「海外に強みを持つACKGと国内の民間にも顧客を持つ

PCIGがインターアクトを設立して打って出るのは必然的なものだ。両グループは柔軟に、積極的にできる限りの支援をしていく」と強調した。八島会長は「両出資会社のDNAを引き継ぎ一流の組織にしたい」と述べ、若手に対しては世界という舞台で能力を発揮させる道筋をつけたいと話した。